

新しくなりました!!

須磨区医療介護サポートセンター

令和2年1月発行

SUMAいるタイムズ 創刊号

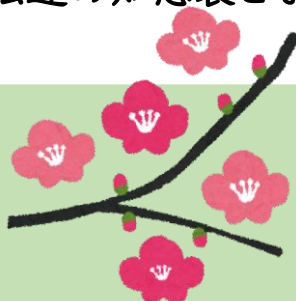
発行：須磨区医療介護サポートセンター

「SUMAいるタイムズ発刊に際して」

須磨区医療介護サポートセンター
センター長 松井誠一郎

須磨区医療介護サポートセンター発足の比較的早期から、SUMAいるタイムズは、多職種事例検討会などの活動報告をするために発行されてきましたが、医療介護連携の輪がひろがるにつれて、もっと盛り込みたい情報が増えてきました。サポートセンターからの発信だけでなく様々な介護施設からの発信や、また医療介護資源情報を補うように新たな施設の情報掲載など、ニーズに応えるべき情報誌が求められています。これは、いわば「かわら版」から「ミニコミ誌」への発展ですが、単に内容の多様化ということだけでなく、「みんなで作り上げる」という制作過程の変革をもたらすことにもなるわけです。そう、これは内容だけでなく制作すること自体が連携を深めることにつながるわけです。

「SUMAいる」とは「Smile」、そして「須磨に居る(生きる)」ということで、「SUMAいるタイムズ」が、人々が最後まで慣れ親しんだ場所で「笑って」暮らせるために活動する私達の知恵袋となることを願っております。



研修報告

「同行訪問研修」伝達研修会

日時：令和2年1月17日（金）17時30分～19時

会場：須磨区医師会 2 階メインホール

（須磨区磯馴町 6 丁目 1 番 4 号

須磨区医師会内）

発表者

- ・神戸医療センター 退院支援看護師 妙見知子氏
- ・新須磨病院 医療ソーシャルワーカー 田邊成美氏
- ・介護老人保健施設すま松の郷 支援相談員 井上英里子氏

講評：青山クリニック 青山裕一先生

ケアマネジャー、看護師、MSW、管理栄養士、救急隊と、色々な職種の方達が20名、参加して下さいました。演者の方達に、同行訪問での学びについて発表していただきました。在宅診療についての理解を深めて頂き、今後の活動に活かしていただける発表となりました。



グループワークでは、栄養指導や救急搬送時の様子など、日頃関わりがなかなか持てない職種の方もおられ、それぞれの職種の取組みの理解が深まったという声をいただきました。

皆さま、ありがとうございました。

研修予定

第2回須磨区多職種連携検討会

話題提供：「須磨区の救急の現状」

神戸市須磨消防署 消防防災課救急係 係長 柏原 隆志 氏

事例検討：「救急隊と多職種連携について
共に考えよう！」

～救急からの2事例を通じて～

日時：令和2年2月20日（金）

17時～19時

場所：須磨パティオホール



ケアカフェ

「看取りについて考えよう」（仮題）

日時：令和2年3月18日（水）

15時30分～17時

場所：須磨区医師会館

2階メインホール



ご紹介します！



きらりとかがやく街の専門職

「芸大を卒業して初めての職場が、劇団四季でキャッツの衣装なんか作成してました。」自己紹介の掴みはOK！ 酒の席では、この話題(つまみ)でビール1杯はイケます。

それはさておき、ケアマネになって4年目のブームは【働き方改革】。基本、残業「致しません」、土日出勤「致しません」、ケアマネ資格がなくても出来る仕事は「致しません」、接待ゴマすり「致しません」と、言いたいところですが、何せ、我々ケアマネは福祉職。それも、相談援助を専門とする職業。利用者は私たちに、抱えきれなくなった『課題(困りごと)』を差し出してくれます、色々な題材や、様々な方法で。

私たちだけでは、解決など出来るはずもなく、様々な知識と経験を有する仲間たち(多職種)と手を携えて解決策をさがしてゆくのです。

特養の相談員、病院のMSWを経験してきた私が思うケアマネの役割は、**「自宅や住み慣れた地域で、見えてきた人生のゴールを最後まで、その人らしく生きるために支える裏方のような存在」**。主役を張るような派手な仕事ではないけれど、地味な仕事をコツコツと積み上げて、**自信と信頼をかさねてゆける専門職**だと思っています。

冒頭の話には続きがあります。

もし、劇団四季に受かってなかったら、私は恩師の勧めで宝塚歌劇団の衣装部に入社する予定でした。

舞台衣装が作れるケアマネですけど何か？

MEIN HAUSケアプラン

介護支援専門員 宇根 利幸 さん

須磨の魅力、再発見！

実は、わたしのパワースポットがあるんです。
それは・・・海です。そうです。須磨浦海岸です。

子どものころから「須磨の海にいくよー。」と、父に誘われ貝拾いをしました。まさか大人になって須磨に帰ってくるとは思わず、先ず、海を訪問しました。

自宅は甲陽園駅という阪急の支線の終着駅（といっても2駅しかない）を、どんどん山に登った山の中に暮らす私です。つい、仕事しながら自転車で海岸に立ち寄ってしまいます。

須磨の海から大きなパワーをもらってお仕事ができる事を、とっても感謝しています。

訪問中、私のホツとする・・・



パナソニックエイジフリー神戸 佐野 真美 さん



薬剤師の役割と多職種連携の一例

まこと薬局 黒田 泰司さん



在宅医療の患者さんと薬剤の関係については、薬剤の保管状況、薬の飲み忘れ、服用薬剤の理解不足などいくつかの問題が指摘されている。薬の飲み忘れなどによって無駄になる薬剤費は、年間約500億円にのぼるという調査研究もある。（※出典：厚生労働省 患者のための薬局ビジョン参考資料より）

数年前、以前より面識のあったケアマネジャー（以下CM）さんから、肺炎で入院し数日前に退院して80代女性・一人暮らしの方についての相談があった。何ヶ所も病院に受診しており、主治医も決まっていない。病院内から薬が出ているところもあり、院内処方薬は、お薬手帳を見ても記載がないためよく分からないから助けてほしいとのことであった。

自宅に伺い、現在、実際に内服している薬剤を確認し、主治医を、患者さん・家族と決定した。朝の内服薬だけでも4ヶ所受診で11種類あり、主治医に薬を減らせないか相談したところ、退院処方では5種類に減っているはずだという事が判明した。これは、患者本人だけでなく家族も認識しておらず、

CMの気づきで、薬剤師である私に相談されたことにより改善された一例である。この患者さんは、認知症もあり、薬の飲み忘れが多かったため、服用薬剤数を減らすだけでなく、デイケアに行き、確実に服用できる時間帯に、重要な薬を飲んでもらえるように主治医に相談した。その後、ヘルパーさんから薬の飲み込みが悪いと相談をうけ、オブラートを使った「水オブラート法」での服用方法をお伝えし、服薬に関して、一週間に3回程飲み忘れがあったところが飲み忘れゼロに改善した。

患者さん個々の体調やライフスタイルにあわせた薬の適正使用を通じて、最適な医療を受けていただくことは勿論、介護をされているご家族の負担を、少しでも軽減することも薬剤師の仕事のヒトツだと考えている。

これからも

「薬のことは、薬剤師に！」
相談して欲しい。



発刊にあたり……………

皆様には、医療介護サポートセンターの活動にご協力いただき、ありがとうございます。この度、新たな「SUMAいるタイムズ」を発刊させていただく事になりました。

今まで通り、サポートセンターの事業、相談業務、研修報告等の掲載はもちろんのこと、さらに、地域の専門職間の情報共有や多職種連携促進のツールの一つとしての役割を担いたいと考えております。その中で、この創刊号では、ケアマネジャーの宇根さん、佐野さん、薬剤師の黒田さんにご協力いただきました。是非とも、皆さまにも、ご自身のお仕事のアピールや他との連携でうまくいった事例などを投稿していただきたいです。きっと、日々の活動のヒントになるのではないのでしょうか。

また、投稿についてのご意見・ご感想、悩みごとなどをお気軽にお寄せください。今後ともよろしくお願いいたします。

コーディネーター 久保・田村

発行：須磨区医療介護サポートセンター
神戸市須磨区磯馴町6丁目1番4号須磨区医師会内
TEL：078-735-0041 FAX：078-735-0194